

中医学の「気」及び臨床応用

上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、「気」の概念

(一) 伝統漢字の概念 「雲気也。」 『説文解字』
“地気上昇為雲、天氣下降為雨”

(二) 伝統哲学の概念

- 宇宙万物の本体或いは本源である。(天気、地気、人氣、万物之気)
- 運動変化をする精微物質である。「聚則成形、散則成虚」「軽清者上为天、重濁者下为地」
- 宇宙万物の間に相互連結する仲介である。(気一元、同気相求。。。)
- 道徳のレベル(精神面)である。(浩然之気)

(三) 中医学の概念

- 人体を構成する最も基本的な精微物質である。
神気・精気・穀気・元気・宗気・衛気・営気・臟気・腑気・経絡気
- 人体の生命活動を維持する精微物質である。
推動・温煦・防衛・固摂・気化 / 正気
- 運動変化(基本特徴)を行う物質である。
昇・降・出・入

二、「気」の中医学臨床応用

(一) 中医基礎理論方面

- 陰陽理論 「一氣有二」
- 五行理論 「五種類の運動変化」
- 蔵象理論 「整体観念」「同気相求」
- 気血精津液理論 「気一元論」「同源論」

(二) 疾病の診察の方面

「百病生於気」 ※四診：望・聞・問・切

1. 機能減退 ●気虚 ●気陷
2. 運行の失調 ●気鬱/気滯 ●気逆 ●気閉/気脱

(三) 疾病の治療の方面

1. 治療原則 「扶正祛邪」「陰陽平衡」「臟腑気血調和」

2. 治療方法 薬：「四氣」「帰経」
 腧穴：神氣出入
 経絡：気血通行の道

(四) 疾病の予防の方面

「気の調和を重視する」

- 四季気候を順応する
- 情志気機を調撰する
- 起居神気を規則する
- 飲食気味を有節する
- 労作精気を不妄する